

消化器検診 Newsletter

No. 88

発行所: 日本消化器がん検診学会
 関東甲信越地方会
 〒112-0014 東京都文京区関口 1-14-7
 和田文栄ビル2階
 TEL / 03-3267-0678
 FAX / 03-3235-7647
 E-Mail: kantou@jsgcs.or.jp

[日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会機関紙]

一老人の述懐

新横浜ソーワクリニック 横浜総合検診センター 竹原 靖明



● 年が明けて間もなく、増田先生の後を継いで編集委員長に就任された長浜先生より連絡があり「締め切りは2月末で、1000字以上2000字前後で、題は筆者一任」と言う条件で執筆を依頼されました。周辺の世事も片付き気分的に少し落ち着いていたこともあり、この程度ならと安請けしましたが「無題」は返って内容が定まらず散々迷った結果、ここ数年私の胸に去来したことや脳裏に焼き付いたことを思い出すままに取り上げ、私の体調や言動を気遣ってくれた方々への近況報告もかねて執筆しました。題して「一老人の述懐」としました。ご笑覧いただければ幸いです。

近況

● 私の出生は1930年(昭和5)4月ですから昨年の4月で80歳になりました。確かな記憶ではありませんが70歳台後半に入った頃より急に体力、それに連れて気力の衰えも感じるようになりました。記憶力の衰えは関東中央病院(関中)退職後より感じるようになり、周囲の人達に迷惑を掛けないようにとスケジュール用とメモ用の2冊の手帳を用意しきめ細かく記録することで凌いできました。しかし1昨年半ばから視力が落ち集中力が低下してプローブの操作に「苛立ち」を感じるようになり、もう「これまで」と身の整理を考えるようになりました。最初は個人的に関わってきた勉強会やセミナーをすべて80歳になる前に閉じようと世話人や幹事に相談してスケジュールを決めました。この中には四半世紀以上も前から続けてきた会が3つあり、決断には心が痛みました。なかでも「霜月会」は1976年(昭和51)電子

スキャンが実用化された頃より、関中超音波室に研修に来られていた人達で結成した会で、30年の歴史があり、会員は東北、関東、近畿、九州(沖縄を含む)と広範囲に分布しており、断腸の思いで昨年11月閉会しました。

次は超音波検査のことです。非常勤として続けていた関中画像診断科を一昨年末で辞し、現在勤務している相和会でも今年3月でプローブ操作から手を引くことにしました。しかし、1985年(昭和60)に発足した消化器超音波集検懇話会(本紙、No70参照)の趣旨である超音波スクリーニング担当者教育は私のライフワークでありますので、足腰の立つうちは皆さんと一緒に続けたいと念じています。この仕事を続けることで一番気掛かりなことは、私が気付かないうちに「老害」を撒き散らし、周囲の人々に迷惑を掛けることです。私は自分なりに「老害」を「①同じ事を繰り返し、発想の転換ができなくなる。②出しゃばり過ぎ周囲の意見を聞かなくなる。③周囲の煽てに乗り独善的になる」と定義し、この悪弊に陥らないように注意しながら、皆さんの中に溶け込み愉快地にやって行きたいと思っています。私の心情をご理解下さりよろしくお付き合い下さい。

痛恨事

● 昨年6月中旬、旧制中学時代の畏友M君が逝きました。彼は東京の大学を卒業し府中市に住み、お互いがバリバリの現役時代、関東在住者による同窓会で卒後初めて再会しました。関中で腹部大動脈瘤や前立腺癌を発見し手術を受けさせ糖尿

病の治療にも通院しておりました。退職後の或る日、「CTを受けたら左腎臓に癌が見つかった」と知らせがあり、「しまった。なんでもっと早く超音波を受けさせなかったのか」と脳天を殴られたような衝撃を受けました。早速、関中に行き超音波検査をしたところ、被膜外に浸潤している進行癌と解かり愕然としました。手術不能と怯む泌尿器医を説得し、消化器外科医の協力のもと、下大静脈経由による肺転移を防禦して広範囲に左腎摘出をしましたが数年後肺転移が起り抗癌剤治療を始めました。高額の治療費もさることながら、抗癌剤の副作用の辛さには、あの辛抱強く剛毅なM君も悲鳴を上げていました。体力は急速に落ち、長く続けていた同窓会の世話を几帳面に整理し終えた数ヶ月後、脳出血で倒れ関中に入院しました。2日間の意識喪失の後、軽度の麻痺を残したが奇跡的に回復し、リハビリと介護のため自宅近くの施設に移りました。

早春の風の冷たい日でした。久しぶりにその施設に彼を見舞ったところ、大勢の中から目敏く私を見つけ相好を崩して喜び、小一時間、中学時代の岡山空襲やその後の授業風景など昔話に花を咲かせました。転んで骨折でもすると大変だからと断わるのも聞かず、エレベーターの前まで送ってくれ、「じゃ、またな」と堅く握手したがそれが最後の別れになりました。骨太のカサカサした手でしたがその温もりは今も焼きついて消えません。「律儀」、「実

直」を絵にしたような素朴な男でした。

永年にわたり超音波スクリーニングの有用性を説き、その精度向上に必要な担当者教育を最後の仕事として取り組んできた私が「なぜ、彼に超音波検査を奨めなかったのか」悔やんでも悔やみ切れない痛恨事でありました。

喜びと快挙

去年は悔やまれることや切ないことがありましたが、また大変嬉しく記念すべき快挙もありました。その一つは昨年6月11～12日沖縄・宜野湾市のラグナガーデンホテルで開催された本学会の第49回総会(会長:金城福則)時の超音波検診懇話会で私の「傘寿記念」として、参加者を代表して田中幸子先生より「お祝いの言葉」と沖縄名物の朱色の「かりゆし」を戴きました。予期せぬ贈り物に驚き、私は年甲斐もなく照れて返す言葉がありませんでした。超音波懇話会は周知のように25年前に発足し、検診従事者の「親睦」「連帯」「教育」の場として多くの人に親しまれてきました。このような「会」での祝福は私にとっては冥利に尽きる喜びで胸に深く刻まれる思い出になりました。その二は「USオープン」での出来事です。この会は2004年秋、超音波医学会が開催された折、超音波を愛好する有

目次

一老人の述懐 竹原 靖明	1
リレー随筆「麒麟の首」 岡田 義和	4
「沖縄旅行」 矢島 晴美	5
施設紹介	6
平成22年度 秋の叙勲受章	7
平成23年度事業計画案 超音波部会	8
日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 平成23年度超音波部会総会セミナー	9
日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 第13回超音波部会研修会(日光セミナー)のご案内	10
ザ・ベストイメー징ングコンテスト 応募要項	11
『超音波スクリーニング研修講演会2011有明』のご案内	12
平成23年度事業計画案 放射線部会	13
平成23年度事業計画案 保健衛生部会	14
第71回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会開催のご案内 第2報	15
88号掲示板	16
第50回日本消化器がん検診学会総会	17
編集後記	18

志によって始められたゴルフ親睦会ではありますが、他の学会活動と重複しないように時期を調整して11月下旬から12月上旬に開催されるようになりました。開催地も参加者の希望で前年に決められ、昨年はゴルフ愛好者ならずひ一度はプレーしたいと云われる長崎の「パサージュ琴海アイランド」が選ばれました。このゴルフコースは風光明媚と高い戦略性で知られ、特にグリーンはポテトチップスのように曲がり放題でありました。私は老人らしくトボトボとリスクを避けて「きざみ」戦法で臨みました。パートナーは大石先生と堀口先生、この気楽な仲間にも恵まれ最近では珍しい好スコアが出て、初優勝の栄に浴しました。また、プレー後の表彰パーティで

は参加者から「傘寿」の温かいお祝いを戴き、感謝と感動で胸が一杯になりました。

今回のUSオープンでは長崎県出身の須山先生およびご家族、幹事の長浜先生らに大変お世話になりました。参加者一同に代わり厚くお礼申し上げます。

80歳の大台に乗った2010年(平成22)は悲喜こもごも、起伏に富んだ生涯忘れることの出来ない記念すべき年になりました。これからも皆さんと一緒に、この道を歩み続けることをお約束し「巻頭の言葉」と致します。

このたび東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々に
衷心よりお悔やみ申し上げますとともに、
被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復興を学会員一同、
心からお祈りしております。

食道から大腸まで

適確診断のために……

薬価基準収載

処方せん医薬品 注意-医師等の処方せんにより使用すること

【硫酸バリウム製剤】

■ 上部消化管X線造影剤

パルテスター[®] A240

パルトゲン[®] SHD

■ 注腸用X線造影剤

エネマスター[®] 注腸散

■ X線CT用経口消化管造影剤

パルトゲン[®] CT

■ 消化管X線造影剤

パルトゲン[®] HD

パルトゲン[®] ゾル145

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

パルトゲン[®]

パルトゲン[®] ゾル

■ X線診断二重造影用発泡剤

パルトゲン[®]-デラックス ウムブラ[®] MD

パリエース[®] 発泡顆粒

■ 胃内有泡性粘液除去剤

パルトゲン[®] 消泡内用液 2%

(ジメチコン内用液)

■ 緩下剤

ファースル[®] 錠 2.5mg

(ピコスルファートナトリウム錠)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

FSK 伏見製薬株式会社 ・資料請求先 / 学術室

〒763-8605 香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284

仙台営業所 / TEL 022-295-5667 東京営業所 / TEL 03-5328-7801 名古屋営業所 / TEL 052-732-8555
大阪営業所 / TEL 06-6221-5101 中四国営業所 / TEL 0877-22-7284 福岡営業所 / TEL 092-413-4107

やさしさと温もりをもって届けたい。



リレー随筆

「キリンの首」

財団法人 埼玉県健康づくり事業団
岡田 義和

第33回消化管造影技術研修会が、平成23年1月28日(金)から30日(日)の3泊4日で開催され、例年より多い94名の受講生が研修を修了されました。研修会場がある東京の最高気温が10℃を下回る寒い中、北は北海道から南は沖縄県の各都道府県から、放射線技師になりたての20代からベテランの60代までの幅広い年齢の受講生は、それぞれの胃X線画像を持って研修会場に到着しました。

研修中は実行委員と受講生がホテルに宿泊して、著名な医師、技師による消化管造影の講義にどっぷりと浸かって3日間を過ごすこととなります。最近では、受講生に若い技師、女性技師が増えたこと、若い技師ながらすぐれた撮影技術や読影力を持った受講生もあり、研修会場の雰囲気はがらりと変わったと思われれます。受講料は決して安くありませんが、毎年、自費での受講者が数名おり、自身の撮影技術や読影力のさらなる向上への意気込みが感じられます。研修会での持参フィルム評価においても優秀な施設が10施設以上となるなど、各地域、各施設での基準撮影法の導入や撮影技術、読影力の向上への取り組みの成果があらわれているようです。研修は3日間で終了しますが、講義終了後に講師や受講生同士の親睦や情報交換を図るためのミーティングルーム部屋が設けられ、部屋の入口は受講生たちのスリッパが溢れるほどになり、講師の医師、技師を囲んでの深夜におよぶ討議によって部屋は熱気に満ちていました。研修を終了した受講生たちは、この熱き思いを秘めてがん検診の精度向上に向けて頑張っていると思います。

さて、ニーチェの「善悪の彼岸」によると、

「ある人間の高さを見ようとしない者は、それだけしげしげと鋭く、その人間の低さや上っ面に目を向ける。そして、そうすることで自分自身をさらけ出す。」

人間には根本的になにか歪み、ひねくれたところがあり、人間の高さより低さに目を向け、隣人の幸福より不幸を歓迎するところがある。

ところで、真偽のほどは分からないが、自然への適応から動物の形態を説明しようとする進化論によると、キリンの首が長くなったのは、高い木の葉を食べようと

して首を伸ばしていたからだといわれています。人間の品性を左右するのは、まさにこの「キリンの首」と同じです。人間の偉大さ、崇高さ、高貴さにたえず目を向けていれば、それがこちらにも滲み込んでくるかもしれない。人間の下劣さ、卑しさ、愚劣さばかりに関心を寄せているうちに、その人間の品性は下がってくるのかもしれない。(人生を考えるヒント・ニーチェの言葉から木原武一)

我々の消化管撮影においても、精度の高いX線写真の撮影にたえず目を向けていれば、おのずと知識、技術は滲み込んでくるのかもしれない。

今回は、東京都がん検診センター・竹中祐太さんです。



「沖縄旅行」

財団法人 東京都予防医学協会
矢島 晴美



2011年の仕事始めからまもなくして、休暇をとり沖縄へ行ってまいりました。

全国的に寒波と大雪に見舞われていたので、暖かい沖縄へ脱出と勢いでかけましたが、この異常気象は沖縄も例外ではなく、どんよりと厚い雲に覆われていました。それでも連日乾燥注意報が発令される冷たい空気から開放され、亜熱帯性の気候特有の湿気にホッとしました。

2日目は、時々薄日のさす曇り空で南国の青い空とは程遠い空模様でしたが、沖縄料理満載の朝食をたっぷり摂りお腹も大満足。さっそく沖縄のガラス工芸の体験を予約し出かけました。工房は海を望む広場にこじんまりとした建物で、アットホームな雰囲気でした。工房の方に、「作りたい物を選んでください」と言われ、陳列棚にある様々なデザインのコップやぐい飲みを参考に、形や大きさ、配色などを選んでいきます。私は、沖縄のお酒「泡盛」がおいしくいただけるように、ぐい飲みを作ることに決めました。

デザインが決まると、エプロンと軍手の作業着姿になり、宙吹きの実習。1メートル以上もありそうな管は、持っているだけで大変な力仕事です。数回の練習の後に、釜から充分に解けたガラスを管の先に巻き取ってもらい、助けてもらいながら少しずつ空気を吹き込んでいきます。形や大きさ、色の感じを確認しながら約15分ほどで出来上がりました。出来上がったものは、一晩冷まして翌日完成品となります。ガラス職人になったつもりの貴重な体験ができました。本来沖縄のガラス工芸は、明治の中期に始まり、現在は戦後に米軍がもたらした廃ビンを利用することに始まったそうです。廃ビンに含まれる不純物のせいで気泡や厚みが出てしまいましたが、沖縄の海のあたたかさを感じさせるということで、それが持ち味となり沖縄の伝統工芸の一つとして確立されていくことになったとのこと。沖縄には、ガラス工芸の他にも本島にはない独特な形や色合いの工芸品がたくさんあります。たとえば、沖縄の焼き物「ヤチムン」、染物では「紅型(びんがた)」織物では「芭蕉布」「ミン

サー織」など他にもありますが、本島や近隣の国の伝統工芸に影響を受け独自の工芸品となったものばかりです。それぞれ工芸品の名前もユニークで、色鮮やかなものが多く興味深いです。さて、沖縄の文化に触れたところで、次は沖縄の食にも触れなくては…。

沖縄3日目、出来上がったぐい飲みを受け取りに再び工房へ。形といい色合いといい初めてにしてはなかなかの出来栄。さあ気分が乗ったところで、肝心の泡盛を購入しなくては。工房からしばらく歩いたところに、「道の駅」を発見。地元でも人気の道の駅だそうです。地元で朝収穫された野菜や果物、近所のおばちゃんが作ったお惣菜やおやつ、沖縄特産のお土産品、そして泡盛をはじめ各種のお酒類となんでも揃います。お薦めの泡盛とおつまみに「豆腐よう」を購入。「豆腐よう」は苦手な方も多いと聞きましたが、ここはチャレンジしてみなくては。そしてちょうどお昼時でしたので、お昼ご飯は本場の「沖縄そば」にしました。「そば」とは言いますが、「沖縄そば」はそば粉は用いず小麦粉で打ったもので、ブタやカツオのだしでとったスープで食べます。具には箸で簡単にほぐれるほどやわらかいブタの三枚肉や小口ネギなどがのります。また、宮古諸島や八重山諸島のそばはそれぞれ違いがあり「宮古そば」「八重山そば」として親しまれているそうです。また調味料としては「コーレーグース」という泡盛にトウガラシを漬け込んだものがあり、うっかりかけすぎると頭から汗が噴出すほどの辛さです。辛いものが好きな方にはお勧めです。沖縄そばを食べ終わったあとも、あたりを見渡せば甘い香りを漂わせている屋台がたくさんあり、ついつい別腹も満たしたくなります。香りに誘われるまま、屋台で「ポーポー」と呼ばれる、味噌や砂糖で甘みを加えた小麦粉を溶いて薄焼きにしクルクルと巻いた素朴な菓子(子供のおやつだそうです…)を買ってみました。他にも「ヒラヤーチー」「カーサムーチー」など名前を聞いただけではどんな食べ物か想像もつかず食の冒険です。沖縄の菓子といえば「サーターアンダーギー」や「ちんすこう」が有名ですが、どちらも中国から伝来した菓子の変形と考えられ固有の食文化として定着したそうです。

今回短い時間でしたが、気持ちもお腹にも大満足の旅となりました。同じ日本でありながら、まるで外国を旅したような沖縄は、まだまだ奥が深く探求してみたいなりました。来年は沖縄で何をしようかと、また旅することを考えています。

施設紹介

「財団法人 東京都保健医療公社 東京都がん検診センター」

< 沿革 >

- 昭和47年8月 (財) 東京都がん検診センター (お茶の水) が設立。
- 平成2年7月 多摩がん検診センター (府中市) が事業開始。
- 平成4年10月 (財) 東京都健康推進財団が設立され、東京都がん検診センター及び多摩がん検診センターが当財団に引き継がれる。
- 平成15年3月 東京都がん検診センター (お茶の水) 事業終了。
- 平成15年4月 多摩がん検診センターは東京都がん検診センターと統合され、東京都多摩がん検診センターと名称変更する。(財) 東京都健康推進財団から (財) 東京都保健医療公社に引き継がれる。
- 平成22年4月 東京都がん検診センターに名称変更する。



< 施設紹介 >

当センターは、都立多摩総合医療センター (789床)、都立多摩総合小児医療センター (550床)、都立神経病院 (304床)、都立療育センター (250床) などとともに府中メディカルプラザにある。検診では、おもに住民検診を担当し、消化器科、婦人科、乳腺科、呼吸器科、放射線科、検査科からなり、がん検診の診療のほか、東京都のがん検診精度管理評価事業やがん検診受診率向上のための啓蒙活動を行っている。消化器科は、一次検診から二次精密検査、術前精密検査を行い、内視鏡治療は当センタースタッフが担当し、外科手術はおもに都立多摩総合医療センター外科に紹介しているが、公社各病院や都立各病院とも連携がある。近隣医師会との強力な連携を基盤に、術前精密検査が多く、また内視鏡治療後や外科手術後の経過観察も行っている。したがって、当科は、発見から精密検査、治療、経過観察までのトータルサポートを行う専門のがん検診機関である。最近では、がん検診専門職を活かして、がんドックを行っている。

< 平成 21 年度診療実績 >

間接胃X線検診 : 21,854人 大腸がん検診 : 11,973人
 上部内視鏡検査 : 5,554件 大腸内視鏡検査 : 4,509件

< 発見癌 >

食道癌 (表在癌) : 24 (20) 件
 胃癌 (早期) : 198 (138) 件
 大腸癌 (早期) : 291 (227) 件

< 内視鏡治療 >

外来 大腸内視鏡治療 (外来) : 1,165件
 入院 内視鏡治療 : 食道ESD ; 15件, 胃ESD ; 92件, 大腸EMR : 113件, 大腸ESD : 12件

平成22年度 秋の叙勲受章

神奈川県労働衛生福祉協会 石渡 良徳

この度、平成22年度秋の叙勲に際しまして図らずも保健衛生功勞により瑞寶雙光章の拝受の榮に浴し、身に余る光榮と感激しております。



昨年11月5日に神奈川県知事より勳記勲章の伝達を受け、同10日家内共々皇居に参内し、春秋の間に於いて天皇陛下に拝謁の榮譽を賜りました。これもひとえに関東甲信越地方会放射線部会の皆様方の温かいご指導ご鞭撻の賜ものと存じ、心から御礼申し上げます。

『人は二度死ぬ』とされています。一度はまさしく「生」が滅びて死に至ることですが、二つ目は自分がこれまで歩んできた人生の中で培ってきた努力の結晶が、周りの人々の記憶から消え去ってしまうことだと言われています。私の場合は永年携わってきた胃がん検診の世界で学会を通した「胃がん検診専門技師認定制度」の確立や「がん対策基本法」の制定に微力を注ぎ、がん検診に携わる放射線技師の社会的な位置づけに関与して参りました。

わが国では1年間にがんで死亡する数は34万人を超え、国民のほぼ2人に1人ががんに罹り、亡くなる人の3人に1人ががんで命を失うという状況にあります。がん対策の推進に関する「がん対策基本法」が2006年6月に閣議決定され翌年4月から施行されて「がん対策推進基本計画」が実施されました。その中にがん検診の受診率を50%以上に向上させ10年以内のがんの年齢調整死亡率を20%減少させることの最終目標が打ち出されたことは周知の通りですが、何よりも「撮影する担当は胃がん検診専門技師による」という一節が盛り込まれたことに大きな喜びを感じました。

今後は、この榮譽に驕らずそして恥じる事のないように、新たに出発した国策のがん対策に更に検証を重ねながら精度の高い信頼される体制を築き上げ、予防医学の発展のために一層精進致す所存でございますので、何卒相変らぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



平成23年度事業計画案

超音波部会

(1) 平成23年度超音波部会セミナー

- 会 期：平成23年4月23日(土)午後1時～4時30分(受付開始12時30分)
会 場：東医健保会館 大ホール 東京都新宿区南元町4番地
教育講演1「超音波技師に必要な臨床の知識…肝臓…」
教育講演2「超音波技師に必要な臨床の知識…膵臓…」
症例検討会(スクリーニング発見3症例)

(2) 第13回超音波部会研修会(日光セミナー)

- 会 期：平成23年6月25日(土)・26日(日)
会 場：日光東照宮「晃陽苑」 栃木県日光市瀬尾1640-14
募集人数：40名程度
テ ー マ：症例から学ぶ
レクチャー(病理) レクチャー(基礎) レクチャー(肝臓) レクチャー(胆道)
レクチャー(膵臓) レクチャー(画像) レクチャー(乳腺)

(3) 第7回長野セミナー

- 会 期：平成23年8月6日(土)予定
会 場：佐久勤労者福祉センター(長野県佐久市佐久平駅南4-1)

(4) 第71回関東甲信越地方会学術集会(第13回超音波部会学術集会)

- 会 期：平成23年9月10日(土)
会 場：JA長野(長野市)超音波部会世話人:岡庭 信司(飯田市立病院)
1) 一般演題
2) 教育講演
3) ライブデモ
4) ザ・ベストイメージング・コンテスト
5) テクニカルミーティング

(5) 超音波スクリーニング研修講演会2011横浜

- 会 期：平成23年12月17日(土)
会 場：TOC有明4階 コンベンションホール予定

(6) 初心者のための腹部超音波実技講習会

- 会 期：平成24年2月18日(土) 予定
会 場：公立学校共済組合 関東中央病院 東京都世田谷区上用賀6-25-1
募集人数：20名程度

(8) 第7回新潟セミナー

- 会 期：平成24年2月末 開催予定

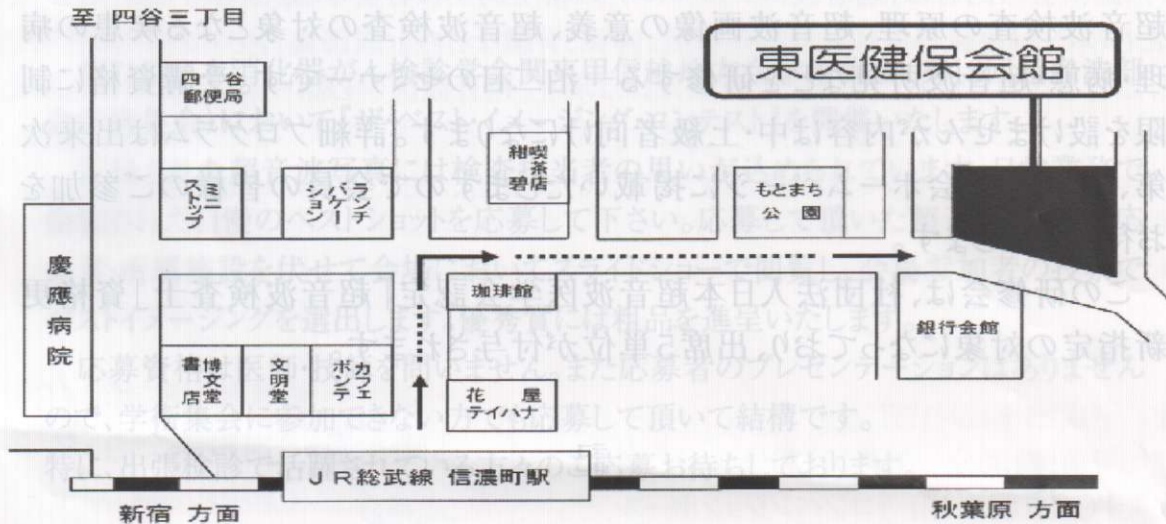
日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 平成23年度超音波部会総会セミナー

会 期:平成23年4月23日(土) 午後1時～4時30分(受付開始12時30分)

会 場:東医健保会館 大ホール 東京都新宿区南元町4番地

会 費:2,000円(非会員3,000円) *事前登録不要

*超音波検査士資格更新指定(出席5単位)



*徒歩順路(JR総武線 信濃町駅 徒歩5分)

信濃町駅の改札を出て、券売機に沿って右方向へ出ると、右手に「花屋テイハナ」がある。その道の一つ目の角を右へ曲がり、「もとまち公園」を過ぎると、左手に【東医健保会館】の看板が見える。

プログラム

- 13:00～13:05 開会の辞(代表世話人)
- 13:05～13:55 教育講演1 「超音波技師に必要な臨床の知識…肝臓…」
講師:西川 かおり(杏林大学第三内科)
- 13:55～14:45 教育講演2 「超音波技師に必要な臨床の知識…膵臓…」
講師:金田 智(東京都済生会中央病院)
- 14:45～15:00 休憩
- 15:00～15:10 第13回超音波部会総会
- 15:10～16:30 症例検討会(スクリーニング発見 3症例)
座長:医師 中島 美智子(埼玉医科大学 包括地域医療部)
技師 矢島 晴美 (東京都予防医学協会)
- 16:30 閉会の辞(研修委員長)

問合せ先:関東中央病院画像診断科(山田)

E-mail:kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com

ホームページURL:http://www.mskanus.org/

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会

第 13 回 超音波部会研修会(日光セミナー)のご案内

(1)平成23年度超音波部会セミナー開催前車* (円000,8員会非)円000,2:費 会

下記の通り、第13回超音波部会研修会(日光セミナー)を開催いたします。

当研修会は超音波検診担当者の教育、および指導技師の育成を目的に、超音波検査の原理、超音波画像の意義、超音波検査の対象となる疾患の病理・病態・超音波所見などを研修する一泊二日のセミナーです。受講資格に制限を設けませんが内容は中・上級者向けになります。詳細プログラムは出来次第、超音波部会ホームページに掲載いたしますので会員の皆様のご参加をお待ちいたします。

この研修会は、社団法人日本超音波医学会認定「超音波検査士」資格更新指定の対象になっており、出席5単位が付与されます。

記

会 期：平成23年6月25日(土)・26日(日) 一泊二日

会 場：日光東照宮「晃陽苑」 栃木県日光市瀬尾1640-14

*3~4人の相部屋になります

参加費：2万円程度予定

参加資格：当学会に所属している会員の方が対象です

募集人数：40名(応募多数の場合は抽選になります)

申し込み、手続き等は平成23年5月初旬を予定しています

主 催：日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会超音波部会

*超音波部会ホームページ <http://www.mskanus.org/>

*プログラムは近日中にホームページに掲載いたします

(6)初心者のための腹部超音波実技講習会 第13回

会 期：平成23年8月6日(土)予定

(7)第7回新着セミナー (会費5,000円) 美都 島 崎 研 究 所

(8)第7回新着セミナー (会費5,000円) 美都 島 崎 研 究 所

会 期：平成24年2月末 開催予定

(田山) 持 淵 益 義 画 誌 検 査 中 東 関 : 求 せ 合 問

E-mail: kensu-gzou@kanto-ctr-hsp.com

ホームページURL: <http://www.mskanus.org/>

ザ・ベストイメージングコンテスト

(The Best Imaging Contest)

応募
要項

第71回関東甲信越地方会学術集会(第13回超音波部会学術集会)

会 期：平成23年9月10日(土)

会 場：JA長野県ビル(長野市)

超音波部会当番世話人:岡庭 信司(飯田市立病院消化器内科)

第71回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会(第13回超音波部会学術集会)において『ザ・ベストイメージング・コンテスト』を開催いたします。

記録された超音波写真には検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された自慢のベストショットを応募して下さい。応募して頂いた超音波写真を、応募者・所属施設を伏せて会場においてスライドショーで閲覧し、会場参加者の投票でベストイメージングを選出します。優秀賞には粗品を進呈いたします。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、学術集会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。特に、出張検診で活躍されている方々のご応募お待ちしております。

【超音波画像】

Bモード(カラードプラ・パワードプラ可) 1枚(但し2分割使用可)

【領域】

上腹部(肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他)

【応募方法】

E-mailで件名を『ベストイメージング(応募者名)』とし、氏名・連絡先住所を明記の上、添付ファイル(power point)で応募下さい。

スライド1枚目

氏名、所属施設名、超音波機種名、周波数、患者(検診者)の年代・性別、診断名、コメント(術者の一言)

スライド2枚目

超音波写真

【応募先】

新横浜ソーワクリニック 担当：中村 稔

kensa.yokohama@sowa.or.jp

【締切日】

平成23年8月31日(必着)

『超音波スクリーニング研修講演会2011有明』のご案内

謹啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年は、横浜市の“はまぎんホール(ヴィアマーレ)”で開催いたしました。年々参加者が増加し、会場に収容しきれない状況になり、参加者の皆様にはご迷惑をおかけ致しました。

本年からは、東京の臨海副都心に会場を移し、収容人数700名を超えるホールで開催いたします。

本研修講演会の内容は、超音波スクリーニングの精度向上に必要な基礎および臨床的知識を広く網羅したもので、対象臓器は肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓などの上腹部臓器を中心に、消化管、乳腺、甲状腺、血管を含めて企画しています。講師陣には現在、超音波医学の第一線で活躍されているトップレベルの指導医をお迎えし講演していただきます。

ご多忙の時期とは存じますが、お繰り合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

謹白

記

会 期：平成23年12月17日(土)

午前9時30分～午後5時30分

会 場：TOC有明 4階 コンベンションホール

東京都江東区有明3-5-7

*埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より

徒歩3分

*ゆりかもめ『交際展示場正面』『有明』駅より

徒歩4分

参加費：4,000円 事前登録不要

主 催：日本消化器がん検診学会/日本総合健診医学会

超音波スクリーニングネットワーク



..... 徒歩ルート りんかい線の初電車から終電車の間は、通行することができます。

以上

平成 23 年度 事業 計画 案

放射線部会

(1) 世 話 人 会

- ・ 年に5～6回実施する。

(2) 組織運営委員会

- ・ 全国放射線部会(仮称)の設立へ向けての検討委員会の開催(新しい法人化移行に伴う全国放射線部会(仮称)の設立)
- ・ 地方会の活性化に向けた放射線部会の取り組み
- ・ 会員増に向けた活動
- ・ 4組織(日本消化器がん検診学会部会委員会放射線技師部会、日本消化器画像診断情報研究会、日本消化管画像研究会、胃X線精度管理研究会)による精度向上のための合同委員会の開催

(3) 学術運営委員会

- ・ 第44回放射線部会総会の開催
平成24年2月4日(土)、千葉市で開催予定
大会長 滝口 裕
- ・ 第34回消化管造影技術研修会の開催
(平成24年1月27(金)、28(土)、29日(日)2泊3日の合宿制の研修会、於日本青年館)
- ・ 胃X線検査レベルアップセミナーの開催
第12、13、14、15、(16)回の年4回ないし5回の開催予定
(開催場所の予定と日程:平成23年5月東京／8月山梨／11月東京／平成24年2月東京、いずれも土曜日に実施)
- ・ 症例集作成検討委員会(DVDの作成)
- ・ 読影会検討委員会(読影の補助に向けての勉強会の開催)
- ・ 第71回関東甲信越地方会学術集会(平成23年9月3日(土)長野市で開催)へ参加し、学術の研鑽を図る。

(4) 表彰委員会

- ・ 市川賞選考検討委員会の開催
- ・ 技術賞選考検討委員会の開催
- ・ その他の表彰の選考

(5) 広報活動委員会

- ・ 放射線部会のホームページの充実
- ・ 地方会のホームページの作成に協力
- ・ 学会ホームページとのリンク
- ・ 一般人への広報活動について

平成 23 年度 事業 計画 案

保健衛生部会

(1) 第71回地方会

- ・ 教育講演を検討中。テーマ等詳細は未定
- ・ 学会開催地の保健師・看護師等専門職種と連携をし、参加へのPRを行なう

(2) 地方会認定の『胃がん検診安全管理マニュアル(仮称)』作成への協力

- ・ 胃がん検診実施時に検診実施医療機関、検診実施主体（区市町村・職域等）で使用できる安全管理マニュアルの作成へ向けての協力。

→ 平成21年度までの保健衛生部会のシンポジウムを受けて、受診者の検診適応外基準等の示されたマニュアルの作成が地方会の方針として決まった場合、作成に参画。

(3) がん検診受診率向上及び早期がん発見に向けての普及啓発講演会

- ① 目的：胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん予防のために一次検診がいかに大切であるか、その位置づけ、留意点、効果について正しく理解をしてもらう。また、一次検診から精密検査、早期がんの発見・早期治療への一連の流れや内容を理解し、予防行動に結びつけることができる。
- ② 対象者：地域住民、がん検診担当者等
- ③ 時期：未定（開催は土曜日を予定）
- ④ 場所：都内
- ⑤ 参加者への働きかけの工夫：消化器がんと女性がんを抱き合わせて講演することにより、講演会参加への動機を高め、少しでも多くの参加者を募る。
- ⑥ 参加費：無料

(4) 保健衛生部会の充実

- ・ 部会会員の拡充、会員の減少防止について、前年度に引き続き新たな対応を検討する。

なお、保健衛生部会は世話人等も少なくマンパワー不足のため、予定を年度途中で変更せざるを得ない場合もある。

第71回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会 開催のご案内 第2報

期 日：平成23年9月10日(土)
 会 場：JA長野県ビル
 (長野駅善光寺口より徒歩10分)
 会 長：地方独立行政法人長野県立病院機構
 須坂病院 内視鏡センター 赤松泰次
 参加費：3,000円

テーマ「消化器がん検診を見直す」

近年日本人の死亡原因は悪性新生物が第一位を占め、その中でも消化器がんは最も頻度の高い分野です。そのため消化器がんに対する社会の関心は高く、集団検診や個別検診(人間ドック)において消化器がん検診は重要なテーマのひとつになっています。

胃検診はこれまで逐年で行うことが原則とされてきましたが、最近ピロリ菌感染と胃癌の関係が明らかとなり、リスクに応じて検診間隔を設定するという方法が提唱されています。また、X線造影に代わって内視鏡検診を推進している地域も存在します。一方、大腸検診は免疫法による便潜血検査でスクリーニングが行われていますが、要精検者のうち精検未受診者の割合が高いことが指摘されています。

また、大腸内視鏡は胃内視鏡に比べて被検者の身体的負担が少ないため、超高齢者や重い合併症を持つ要精検者への対応が問題になっています。今回は、消化器がん検診における現在の問題点と今後の在り方について議論するため、学会のテーマを上記のように「消化器がん検診を見直す」としました。

プログラム

基調講演：市立総合磐城共立病院 樋渡信夫 先生

会長講演：長野県立病院機構須坂病院 内視鏡センター 赤松泰次

主 題 1：胃検診の近未来像を考える(公募、一部指定)

司会：山梨大学第一内科 佐藤 公 先生

主 題 1：大腸検診の現状と問題点(公募、一部指定)

司会：杉山外科医院 杉山 敦 先生

一般演題(公募)

【演題申し込み方法】

抄録(800字以内)をE-mailにて赤松泰次宛(akamatsut@suzakahp.jp)にお送り下さい。締め切りは5月31日です。奮ってご応募下さい。

事務局：〒381-2298 長野市稲里町田牧206-1

財団法人 長野県健康づくり事業団 両角博幸、玉木孝男

TEL:026-286-6417 FAX:026-286-6412

E-mail:hiroyuki.morozumi@kenkou-nagano.or.jp

〈88 号掲示板〉

第50回日本消化器がん検診学会総会のご案内

会 長：森山光彦（日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野）
 会 期：2011年5月20日（金）～22日（日）
 会 場：東京プリンスホテル 東京都港区芝公園3-3-1 TEL:03-3432-1111
 *部会研究会総会は5月22日（日）9：00～17：30 「第1会場」で開催されます
 プログラム日程等の詳細は下記の学会ホームページをご覧ください。
<http://www.keiso-comm.com/50jsgcs/index.html>

総会事務局：日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野
 事務局 長 小川 眞広
 TEL：03-3972-8111 FAX：03-3956-8496
 運営事務局：勁草書房 コミュニケーション事業部 内
 担当 小森 陽介
 〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1
 E-mail：JSGCS50@keiso-comm.com
 TEL：03-3814-7112 FAX：03-3814-6904

第19回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2011 (JDDW 2011)

JDDW2011は、2011年10月20日(木)～23日(日)の4日間、福岡市（福岡国際センター・福岡サンパレス・福岡国際会議場・マリンメッセ福岡）において開催されます。
 演題募集は終了いたしました。



会 期：2011年10月20日(木)～23日(日)
 場 所：福岡国際センター・福岡サンパレス・福岡国際会議場・マリンメッセ福岡

第53回 日本消化器病学会大会 会長 井廻 道夫 (昭和大・消化器内科)	第9回 日本消化器外科学会大会 会長 白水 和雄 (久留米大・外科)
第82回 日本消化器内視鏡学会総会 会長 松井 敏幸 (福岡大筑紫病院・消化器内科)	第49回 日本消化器がん検診学会大会 会長 乾 和郎 (藤田保健衛生大坂文種報徳会病院・内科)
第15回 日本肝臓学会大会 会長 高後 裕 (旭川医大・消化器・血液腫瘍制御内科)	第42回 日本消化吸収学会総会 会長 杉本 元信 (東邦大医療センター大森病院・総合診療・急病科)

JDDW2011に関する問合せ先 JDDW事務局：〒104-0061 東京都中央区銀座8-9-13 K-18ビル9F
 E-mail：fukuoka2011@jddw.jp TEL：03-3573-1254 FAX：03-3573-2198

第36回部会研究会総会のご案内

会 期：2011年10月29日(土)
 会 場：ウインクあいち
 世 話 人：乾 和郎(第49回日本消化器がん検診学会大会会長)
 部会担当理事：渋谷 大助(宮城県対がん協会がん検診センター)
 担 当 委 員：川地 俊明(大垣市民病院診療検査科)
 *プログラムおよび演題募集要項など詳細は下記ホームページをご覧ください。
<https://sites.google.com/site/36bukai/>

問 合 せ 先：第36回部会研究会総会事務局
 愛知県健康づくり振興事業団総合健診センター 加納健次
 〒470-1101 愛知県豊明市沓掛町石畑142-20
 E-mail: 36bukai@gmail.com tel:0562-92-9011 fax:0562-92-9013

胃がん検診専門技師認定制度に関するお知らせ

社団法人 日本消化器がん検診学会
胃がん検診専門技師認定委員会
委員長 渋谷 大助

胃がん検診専門技師認定制度は平成13年に発足し、学会が認定試験を実施して参りましたが、平成23年度より下記のとおり一部変更となりますのでお知らせいたします。

それに伴い、「胃がん検診専門技師認定制度規程および細則」は改正されることとなります。現在、検討中ですが、決定次第、公表いたしますので定期的にホームページ等の更新内容を確認するようにしてください。

記

1 試験は「NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構」(以下、NPO精管構)によって実施されます。

注) 既に胃がん検診専門技師の認定資格を有する者は改めてNPO精管構の検定試験を受ける必要はありません。

2 上記の試験に合格し且つ学会の認定委員会が定めた基準を満たした者は、「胃がん検診専門技師認定証」が学会より発行されます。

なお、申請方法・時期については改正後の規程に基づいて実施いたします。

注) NPO精管構の試験を受けただけでは学会が認定する「胃がん検診専門技師」の資格を得ることはできません。従いまして、学会の認定技師という呼称はできません。

3 5年毎の更新はいままでどおり学会が行います。

注) NPO精管構が実施する更新制度とは別になりますので、学会の更新手続きを怠りますと認定技師の資格が喪失となりますのでご注意ください。なお、学会ホームページの胃がん検診専門技師名簿からも削除されますのでご注意ください。

4 NPO精管構の指導講師及び指導員の資格を取得された方へ

NPO精管構の指導講師および指導員として任命証の発行を受けた方で、学会の胃がん検診専門技師認定資格を取得されていない場合は学会が定める認定を受ける必要があります。また、5年毎の更新についても学会が規定する所定の手続きが必要となりますのでご注意ください。

以上

編集後記

本号より林学先生の推挙を受け編集委員長を引き受けさせていただくことになりました。編集委員会では定款で定められている本学会の重要な事業活動である年3回のニュースレターの発行とともに、今年度には関東甲信越地方会のホームページの作成が計画されておりそれに向け着手する予定であります。それに伴い、より実務的な活動が必要になるために一部編集委員を若手の先生にお願いし、委員会の活動強化を図る事といたしました。

本号では巻頭言を私の(不肖の弟子ではありますが)超音波の師であり、本学会の超音波部会の発展に尽力され超音波に携わるものとしては父親のような存在の竹原先生に巻頭言をお願いしました。また今回は喜ばしいニュースがあり、放射線部会の石渡氏の秋の叙勲の原稿を掲載しました。他には放射線部会、超音波部会からのリレー随筆と東京都がん検診センターの施設紹介と従来の内容を踏襲した形での発行を行います。

したが、順次新しい企画等を委員会で話し合い、今後より充実したニュースレターの発行を行っていきたく思っております。

関東甲信越地方を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。特に日本消化器がん検診学会の新公益法人制度に伴う新しい社団法人への移行に伴い、これまで比較的独立性を持って運営されてきた関東甲信越地方会も日本消化器がん検診学会の一支部としての位置づけが必要になり、運営基盤の整備、コンプライアンスの順守が必要不可欠になってきます。その中で編集委員会としては従来、年に1回ほどしか開催されていなかった委員会活動の強化や広報活動としてのニュースレターの充実、ホームページの作成をおこない支部の発展に少しでも寄与するべく努力していく所存でありますので、会員皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

早期胃癌検診協会 中央診療所
長浜 隆司

編集委員会

編集委員長 長浜 隆司
編集委員 岡田 義和 神宮字広明 山本 美穂 竹林 章子
渡辺 靖 小田 丈二 山口 和也

(非売品)

セミナー運営・展示会ブースは、 オーパスワンにご相談ください

親切・丁寧

安心と実績

豊富なお提案

リーズナブルな
価格

ONLY
OPUS-ONE

主な事業内容

- ・イベント▶ブース設営/会場設営/学会・セミナー運営
- ・DTP▶冊子、資料、会社案内等制作/印刷業務
- ・Web広告▶デザイン・企画・提案
- ・プロモーション戦略▶リサーチ・プランニング
- ・広告・デザイン▶企画・提案
- ・新聞広告▶企画・提案

広告代理店

株式会社 オーパスワンコミュニケーションズ
〒101-0061 東京都千代田区神田神保町2-2 共同ビル8F
e-mail:opus1@opus1.co.jp URL:http://www.opus1.co.jp/

☎ 03-3512-3560 (担当
村上)

FAX:03-3512-3826

